

平成 26 年 4 月にオープンしたメディカルシミュレーションセンターにて、「シミュレータで学ぶ看介護技術セミナー」が開催された。指導的な立場にある、院内の看護師やコメディカルスタッフ、近隣施設のスタッフも集まり、シミュレータを使った教育方法について学び、触れ合う機会となった。

先生  
紹介



北澤 公男 先生  
iMSC センター長、副院長

語手  
紹介



伊藤 徹 氏  
事務部長



久保田 理彦 氏  
iMSC 管理人

### “まほら伊那”で愛される基幹総合病院

“まほら”とは、大和ことばで「美しい場所」「素晴らしい場所」といった意味を成し、伊那地域は“まほら伊那”の愛称で知られている。その名の通り、のどかで素晴らしい景色が望める伊那中央病院は、上伊那地域の基幹総合病院として、欠かせない存在である。



日本アルプス、田圃、天竜川の自然に囲まれた病院 ▶

### シミュレータで学ぶ看介護技術セミナー

iMSC 管理人である久保田氏 司会のもと、油井 副センター長 (副看護部長) から「シミュレータの良いところは、失敗ができること。シミュレーション教育では、怖がることなく、大いに“失敗”をして学んで欲しいと思います。」という挨拶でセミナーが幕開けた。参加者は約 40 名で、看護師・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士…そのうち約 1/3 が近隣施設から参加したスタッフ。皆、指導的な立場にあるメンバーで、それぞれの目的を持って参加した。



#### 1 タスクモデルによる 口腔・鼻腔・気管内吸引の指導法 地域の人材活用 (院外で行う喀痰吸引)

「喀痰吸引等の制度」など社会の流れを振り返り、看護職・介護職の職種の違いによる指導ポイントについてレクチャー。その後、デモンストレーション・演習を実施。臨床では何気なく行っている吸引だが、新人看護師や介護福祉士に対して、どのような点に重きをおいて指導をしたら良いかということを変えて考える場となった。



#### 2 “Physiko” を活用したトレーニング ①呼吸器観察指導のポイント

コメディカルスタッフの指導にも役立つよう、“解剖知識”と合わせた呼吸音聴取のポイントや、指導方法に関するレクチャーを実施。その後、フィジカルアセスメントモデル “Physiko” と呼吸音聴診シミュレータ “ラング” を使用し正常呼吸音・異常呼吸音の聞き分けを行った。



#### 3 “Physiko” を活用したトレーニング ②ペーパーパシエントとモデルのリンクによるシナリオトレーニング

少人数のグループに分かれ、受け持ち患者を参考にディスカッションを行い、患者シナリオを作成。既往歴から家族構成や氏名まで想像力も働かせつつ、和気あいあいと意見が交わされた。職種異なるスタッフが、お互いの知識・経験を結集したシナリオによって有意義なトレーニングが実現した。



1	2
4	3

1. レクチャーの様子
2. フィジコを使った聴診
3. Qちゃんを使った吸引の指導法について学ぶ
4. グループで患者シナリオを作成



伊藤陽一先生  
(薬剤科長)

#### 一薬剤師の視点からセミナーに参加してー

薬学の世界では、「薬剤の効果が出ているか否か」「副作用の早期発見」をチェックするために、“フィジカルアセスメント”が重要視されています。大学病院を中心に薬剤師がフィジカルアセスメントを学ぶ機会が広がっていますが、市中病院では、これから。薬剤を投与する“前”までを担っていた薬剤師は、薬剤を投与した“後”のアセスメントの役割も担っていくと自覚しています。そこで、シミュレータを使った繰り返しのトレーニングが重要だと考えており、今回のセミナーに参加して学んだことを、次は自分がトレーナーとなって病棟スタッフの育成に活かしていきたいと思っています。

### 施設紹介 メディカルシミュレーションセンター (iMSC) ーiMSC の設立までのご苦労、展望について伺いました

#### 背景 どのような経緯で iMSC が設立されましたか？

地域医療再生計画事業に採択され、計画がスタートしました。平成 25 年 10 月の南棟増築竣工に伴い、内設した伊那中央病院メディカルシミュレーションセンター (iMSC) を平成 26 年 4 月にオープンしました。長野県の二次医療圏の中でも上伊那地域は、特に医師不足が深刻化しており、医師・看護師の確保と人材育成を目標に、iMSC が設立されました。

#### 利用対象 iMSC の利用対象者は？

医師、研修医、看護師、薬剤師、歯科医師ほかコメディカルスタッフ全般です。院外からの利用も積極的に推進し、DM や呼びかけを広く行っています。

#### 利用方法 iMSC の利用方法は？

専用用紙に必要事項を記入する予約制です。現在ウェブ上でスケジュール管理、登録ができるよう整備中。

#### 運営形態 どのように運営されていますか？

専属の管理人 (久保田氏) がいます。ベテランの嘱託が担当しており、研修やイベントの企画から、物品準備、シミュレータの扱い方やシミュレーションの流れをまとめた動画を作成するなど業務は多岐に渡ります。

#### 課題 運営上の課題は何でしょうか？

運営は費用面からも院内だけで完結するのは困難です。一部利用に留まってしまうことのないよう、シミュレータの使用の幅を広げ、有効活用していきたいと考えています。また、センター継続運営のポイントは地域連携と考えています。

#### 展望 iMSC の展望は？

シミュレータを使用して教育を実施する指導者の育成が急務。最近では、主体性をもって「シミュレータを活用した教育をしよう」と士気が高まっています。

#### 編集後記

伊那中央病院に向かうタクシーを途中で止めてもらい写真を撮った…運転手も小さいころから馴染みの病院だという。地域密着型の病院であることを実感。iMSC の常駐管理人である久保田氏は、同病院で部長を務めるなど現場経験豊富な方。それゆえ臨床現場・シミュレーション教育の両方に精通しており、気さくな人柄もあって、この iMSC の運営に大きく貢献されている。まだオープンしたばかりの iMSC だが、着々と活用の場を広げている。

シミュレータで学ぶ看介護技術セミナー  
メディカルシミュレーションセンターを活用した 伊那中央病院の教育実践

施設  
情報

伊那中央病院  
病床数：394 床  
職員数：902 名  
場所：長野県伊那市  
URL：http://www.inahp.jp  
(2015 年 6 月現在の情報です)